JIS

UDC 666.112.3 : 543

R 3101

ソーダ石灰ガラスの分析方法

JIS R 3101-1995

(2000 確認)

(2006 確認)

平成7年5月1日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

窯業部会 ソーダ石灰ガラスの化学分析方法専門委員会 構成表（昭和52年3月1日改正のとき）

	氏名	所属
(委員会長)	多田格三	東芝セラミックス株式会社
	布施美智雄	旭硝子株式会社研究所
	馬屋原暉	日本板硝子株式会社
	白石直典	財団法人九州環境管理協会
	法貴修	東洋硝子株式会社技術部
	田端精一	佐々木硝子株式会社
	松本雄次郎	日本硝子製品工業会
	栗原甲子郎	東京芝浦電気株式会社
	灰田豆太郎	富士通株式会社
	松本勲	株式会社資生堂横浜研究所
	石丸進	麦酒酒造組合
	原重雄	大阪工業技術試験所
	大場立夫	社団法人窯業協会
	中村清	通商産業省生活産業局
	森川武	工業技術院標準部
(事務局)	竹森文夫	工業技術院標準部繊維化学規格課
	田辺修一	工業技術院標準部繊維化学規格課
(事務局)	吉村大輔	工業技術院標準部繊維化学規格課（平成3年10月1日改正のとき）
	小志田憲一	工業技術院標準部繊維化学規格課（平成3年10月1日改正のとき）
(事務局)	武田尚志	工業技術院標準部繊維化学規格課（平成7年5月1日改正のとき）
	小川和雄	工業技術院標準部繊維化学規格課（平成7年5月1日改正のとき）

主務大臣：通商産業大臣　制定：昭和40.2.1　改正：平成7.5.1
官報公示：平成7.5.1
原案作成協力者：社団法人 日本セラミックス協会
審議部会：日本工業標準調査会 窯業部会（部会長　福浦 雄飛）
審議専門委員会：ソーダ石灰ガラスの化学分析方法専門委員会（委員会長　多田 格三）（昭和52年3月1日改正のとき）

この規格についての意見又は質問は，工業技術院標準部繊維化学規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3－1）へ連絡してください。

なお，日本工業規格は，工業標準化法第15条の規定によって，少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され，速やかに，確認，改正又は廃止されます。

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

日本工業規格　JIS

ソーダ石灰ガラスの分析方法　R 3101-1995

Methods for chemical analysis of Soda-Lime-Magnesia-Silica glasses

1. 適用範囲　この規格は，ソーダ石灰ガラスの分析方法について規定する。

備考1. ソーダ石灰ガラスとは，二酸化けい素，酸化ナトリウム，酸化カルシウム及び酸化マグネシウムを主成分とし，酸化アルミニウム，酸化鉄，二酸化チタン，酸化カリウム，三酸化硫黄及び酸化ひ素を含むガラスをいう。

この方法は，上記の成分以外に酸化バリウム，酸化ほう素及びふっ素の各々2.0 mass%以下を含むものに適用できる。

2. この規格の引用規格を，次に示す。

JIS K 0050　化学分析方法通則

JIS K 0115　吸光光度分析通則

JIS K 0121　原子吸光分析通則

JIS K 8001　試薬試験方法通則

JIS K 8005　容量分析用標準物質

JIS K 8121　塩化カリウム（試薬）

JIS K 8150　塩化ナトリウム（試薬）

JIS K 8885　二酸化けい素（試薬）

JIS Z 8401　数値の丸め方

JIS Z 8801　試験用ふるい

2. 一般事項　分析方法に共通な一般事項は，**JIS K 0050**，**JIS K 0115**及び**JIS K 0121**による。

3. 分析項目　この規格で規定する分析項目は，次のとおりとする。

二酸化けい素（SiO_2）

酸化アルミニウム（Al_2O_3）

全鉄分（Fe_2O_3として）

二酸化チタン（TiO_2）

酸化カルシウム（CaO）

酸化マグネシウム（MgO）

酸化ナトリウム（Na_2O）

酸化カリウム（K_2O）

三酸化硫黄（SO_3）

全ひ素分（As_2O_3として）

4. 試料の取り方及び取扱い方

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。